

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	教育用電子カルテを用いた学内実習の教育効果 －COVID-19による臨地実習の補完学修として－				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	管原 清子
	研究分担者	所属・職名	看護学部・准教授	氏名	永谷 幸子
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	山口 みのり
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	加藤 京里
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	倉本 直樹
	発表者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	管原 清子

講演題目	教育用電子カルテを活用した学内実習の効果
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【目的】看護学生にとって、臨地実習は、実際の看護現場で日々状態が変わる患者を受け持ちながら学ぶ重要な機会である。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により臨地実習を行えない状況が複数年続いている。そこで私たちは、2021年度の臨地実習（学内実習）に、臨床に近い体験と看護の思考過程が学べるように、臨地実習の補完学習として教育用電子カルテを導入した。</p> <p>本研究の目的は、学内実習において、教育用電子カルテ（模擬事例）を活用した看護過程の展開を行うことで、教育用電子カルテの活用が学生にどのような学習効果をもたらすのかを明らかにすることである。</p> <p>【方法】看護学部2年生118名を対象とした。看護アセスメント実習の学内実習に、従来の紙上事例以外に、教育用電子カルテを活用して、2事例の模擬受け持ち患者の看護過程の展開を行った。実習終了時に、教育用電子カルテの活用に関するアンケート調査を実施した。</p> <p>【結果】教育用電子カルテと紙媒体での情報収集では教育用電子カルテの方が使用しやすいと53.1%の学生が返答した。さらに、90%の学生が教育用電子カルテの体験は臨地での実習に役立つと回答し、ほぼすべての学生がこのような教育用電子カルテを用いた学習が必要であると回答した。一方、端末の数の少なさや、iPad miniの画面が小さいなどの意見、自身のスマートフォンを使用した場合については画面の見づらさや操作性の悪さについての意見も出された。</p> <p>【考察】教育用電子カルテの活用については、ほとんどの学生が、「実習に役立つ」「教育用電子カルテを用いた学習が必要」と返答しており、臨地実習の前に、学内で、電子カルテ操作に慣れておくことや、実践に近い形で情報収集を行う体験は、学生の臨地実習時の電子カルテ操作や情報収集に関する不安を軽減できると考える。また、電子機器に関するアンケート結果から、学習環境の整備の点で課題があることを確認できた。今回、臨地実習が中止となり、臨地で実際に電子カルテを使用した後の学習や、アセスメント能力への効果は確認することができなかった。</p> <p>【今後の課題】教育用電子カルテの活用は学内実習において一定の効果が確認できたが、学習環境の整備の点で課題が残った。さらに、2021年度は臨地実習が中止となったため、実際に病院で電子カルテを使用した後の学習効果を検証することはできなかった。教育用電子カルテの学内実習での活用による学習効果を継続して検証したい。</p>